

桐蔭学園女子ラグビー部



練習前に自分たちで決めた言葉「克」への思いを部員全員での話し合う、勝利のプロセスが結集されている。

■創部5年目、全国U18女子セブンズ大会に初出場！

2019年に創部した桐蔭学園女子ラグビー部。今季目標に掲げていた全国U18女子セブンズ大会への出場を果たした。(2023年10月28～29日・熊谷ラグビー場Bグラウンドで開催)単独出場できる10人ギリギリの部員数で大会に



坂詰洋平監督

臨んだ。初戦で佐賀工業に10対31で敗戦するが、次戦のCHEERSに36対0で勝利、コンソレーション決勝で追手門学院と接戦の末、19対12で敗戦。最終順位を10位で大会を終えた。人数が

少なくとも全国で通用することを証明した。

■常勝 桐蔭学園の伝統を受け継ぐ 展開ラグビー

全国高等学校ラグビーフットボール大会にて3度の優勝の実績を誇る桐蔭学園男子ラグビー部。別メニューであるが同じグラウンドで練習をしていることも刺激的である。練習は人数は少ないがパスの正確性をいかに上げていくか考えられている。OBである後藤翔太氏のダブルス



ピンを使ったパスの向上への意識が左写真の右手小指が上に向かっていている点からも理解できる。このパスを習得することで素

早く長いパスができるようになる。更に注目すべきは「声」である。ただ声大きいだけではない、2対2の練習で瞬時にお互いが判断できるように声でのコミュニケーションを取っている。基本的な事であるが深く考えられていることが桐蔭学園の展開ラグビーに繋がっている。

■上達屋の操育トレーニングでケガが激減

「女子ラグビー選手でのケガが多い部位は膝の靭帯でしたが、上達屋の手塚氏の推奨する操育トレーニング(骨盤の1次回転と手及び足による2次回転、ダブルスピン)を取り入れてから膝靭帯のケガは無くなりました。効果を実感しています。」と坂詰監督。常に良いものは取り入れていくスピード感が桐蔭学園の文化でもある。

■「克」に込めた思いを結集し更なる高みへ挑戦する。

練習終了後、1枚の大きな模造紙を見せてくれた、この「克」と言う言葉の意味を尋ねると「初の全国大会の出場を経て、より高みに行くために再びチャレンジャーとして自らいばらの道を進むと言う意味。コクです。」と選手たちは応えてくれた。毎日練習前にこれを見ながら課題を話し合っている。練習時の声に驚いた事もこのような実践が生み出したものだ理解した。2024年4月に入部する選手の加入が楽しみだ。この模造紙の内容が濃くなる程に更なる高みは近づくだろう。

■チームデータ

部員数：10名(2024年3月に5名卒業、新入部員募集中)

住所：横浜市青葉区鉄町1614番地

入学・入部の相談先：坂詰(サカヅメ)

E-mail:sakazume@toin.ac.jp

■チーム紹介情報



YouTube



Instagram



ハートにトライ

取材者：松藤義昭・鈴木邦佳